第３講　西洋近現代思想（2013 年度追試４）

（解答番号 30 ～ 38 ）

第４問　次の文章を読み，下の問い（問１～９）に答えよ。（配点　24）

社会の秩序は法や制度によって維持される。しかし，それらは時として個人の自由と衝突する。西洋近現代の思想家は，社会のなかで個人の自由がどのように実現すると考えてきたのだろうか。

法は現実的には ⓐ政治的権力によって運用されているために，権力が人々の自由な生き方を脅かす可能性は常に残る。そこでロックは，政府の役割を個人が生まれながらにもつ ⓑ自然権の保障に限定すべきだと考えた。彼によれば，信仰など個人の内面に関（かか）わる問題に対して，政府は原則として中立でなければならない。18世紀になると，ⓒアダム・スミスが，経済活動における個人の自由を擁護し，市場での自由競争に対する政府の不当な介入を否定した。

ロックらの立場とは異なり，自由は理性によって定められた法に自ら従うところに存すると考える立場もあった。ルソーは，共同の利益を目指す ⓓ意志に，個人が自ら従うことを市民にふさわしい自由とし，欲望に従う自由から区別した。カントはこの自由概念に影響を受け，ⓔ自律こそが真の自由であると主張した。これに対しヘーゲルは，カントの考えを受け継ぎながらも，ⓕ他者や社会制度との密接な関わりという側面をより重視した。ヘーゲルによれば，現実的自由は，個人が追求する各自の利益と共同の利益が調和することを前提とする。個人の自由は，国家の法や制度のなかでこそ実現するのである。

20世紀になると，大衆社会という新たな状況のなかで，個人が ⓖ自由であることの困難さが浮かび上がってきた。ファシズムのもとでは，自由を守るはずの法が人々を抑圧する手段と化したが，そうした状況は，部分的には人々の自由な選択が招いた結果でもあった。こうした事態を克服するためには，個人の決断が結果として他者を巻き込んでいく事実を自覚する必要がある。ⓗサルトルはこのことを強く訴え，自由な決断に伴う責任を説いた。

法や制度は，個人が社会のなかで自由に生きることを保障するとともに，個人の自由を制約するものでもある。また，それらは時に形骸化（けいがいか）したり政治的権力に利用されたりする。私たちは，自由であるために，不自由さに対しても，自分の行為が社会に及ぼす影響に対しても，意識的でなければならないだろう。

問１　下線部ⓐに関連して，16世紀はじめ，力量ある人物が権力を巧みに操って，道徳にとらわれず国家を統治すべきであると説いた思想家として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **30**

① ブルーノ
② トマス・モア
③ ボシュエ
④ マキャヴェリ

問２　下線部ⓑに関して，次の**ア**～**ウ**は自然権ないし自然法について考察した思想家の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **31**

ア　ホッブズは，人間は生まれながらにして自己保存の欲望をもち，その欲望を追求する自然権を有していると考えた。

イ　ベンサムは，個人の生命・自由の保障は，理性の声である自然法に基づくものであると考えた。

ウ　グロティウスは，人間本性に由来する普遍的原理としての自然法と，国家間の取り決めである国際法は対立関係にあると考えた。

	ア	イ	ウ
①	正	正	正
②	正	正	誤
③	正	誤	正
④	正	誤	誤
⑤	誤	正	正
⑥	誤	正	誤
⑦	誤	誤	正
⑧	誤	誤	誤

問３　下線部ⓒに関して，アダム・スミスの思想の内容の記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **32**

① 財の分配において各人を等しく一人として数える平等の原則が，道徳の原理であると同時に立法や行政を指導する理念となる。

② 道徳の原理となるのは共感であり，自己利益を追求する行為は，公平な第三者の視点から共感が得られる範囲内で是認される。

③ ある知識が真理であるか否かは，その知識に基づいて行動した場合に有益な結果が得られるか否かによって決定される。

④ 快楽には，人間らしい能力を発揮するときに感じられる高級な快楽と，動物的で低級な快楽とがあり，人間は高級な快楽を求めることができる。

問４　下線部ⓓに関して，西洋の思想家は様々な仕方で個人の意志について考えてきた。そうした思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **33**

① フロイトは，生存への不合理な意志こそが世界の根源であり，個人はこうした意志を肯定することによって苦悩から脱却し得ると説いた。

② エラスムスは，自由意志を否定し，人間は信仰によって義とされることで罪から解放されて内的な自由をもつと主張した。

③ デカルトは，情念に左右されず，自由意志を用いて理性に従うことで自分自身に対する尊重が生まれると考え，それを高邁の精神と呼んだ。

④ スピノザは，人間が自分のことを自分で決められる自由意志をもっている点に，他の生物とは異なる人間の尊厳があると考えた。

問５　下線部ⓔに関して，自律的な主体からなる共同体についてのカントの思想を説明した次の文章を読み，**a**・**b**に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。**34**

カントは，すべての人間が互いを自律的主体とみなし尊重し合う道徳的共同体を理想的な社会とし，これを**a**の国と呼んだ。さらに，国際的にも道徳が実現することを目指して**b**を唱えた。

① **a**　目　的　　**b**　永久平和
② **a**　相互承認　**b**　永久平和
③ **a**　主体性　　**b**　永久平和
④ **a**　目　的　　**b**　予定調和
⑤ **a**　相互承認　**b**　予定調和
⑥ **a**　主体性　　**b**　予定調和

問６　下線部ⓕに関連して，次の**ア**～**ウ**は社会の変化と個人の関係についての思想の記述であるが，それぞれどの思想家のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 35

ア　創造的な生命の流れは，自己防衛の本能に基づく閉鎖的な社会から普遍的な人類愛に基づく社会へと人間を向かわせる。その転換は，人類愛をそなえた人物の創造的行為によって成し遂げられる。

イ　個人は適者生存のメカニズムと自由競争によってふるいにかけられ，社会は共同性のより高い状態へと変容していく。そして，最終的に社会は，個人の権利が尊重され，個人の自由が実現される産業型社会へと発展する。

ウ　人間精神は，科学の精神を最高段階として，三段階の進歩を遂げる。科学の精神をそなえた科学者は，事実の観察を通して発見した社会の発展法則に基づき，社会を設計する必要がある。

①	**ア**　スペンサー	**イ**　シェリング	**ウ**　ベルクソン
②	**ア**　スペンサー	**イ**　ベルクソン	**ウ**　シェリング
③	**ア**　コント	**イ**　ベルクソン	**ウ**　シェリング
④	**ア**　コント	**イ**　シェリング	**ウ**　ベルクソン
⑤	**ア**　シェリング	**イ**　スペンサー	**ウ**　コント
⑥	**ア**　シェリング	**イ**　コント	**ウ**　スペンサー
⑦	**ア**　ベルクソン	**イ**　コント	**ウ**　スペンサー
⑧	**ア**　ベルクソン	**イ**　スペンサー	**ウ**　コント

問７　下線部ⓖに関して，自由であることの困難さについて考察したフロムの説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 36

① 死への恐怖や飢えにより精神的自由すら奪われてしまう収容所での体験をもとに，人間らしい生き方とは何かを探究した。

② 自由によってもたらされる孤立を恐れるあまり，人々が支配・被支配の関係を求めて，自ら服従へと向かう場合があると指摘した。

③ 人間は，他人との争いや愛する者の死など人生の壁に直面し，自分の有限性を痛感する限界状況を通して自己の本来のあり方にめざめると説いた。

④ 権力が日常的な人間関係のなかで働いて本来の自由が損なわれる危険性を指摘し，権力を強化する監獄などの装置を作り出した近代社会を批判した。

問８　下線部ⓗに関して，サルトルの次の文章※を読み，その説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 **37**

※この部分につきましては，著作権の都合上掲載することができません。

① 生まれながらにして自己に与えられた本質を，具体的な行動を通じて実現していくところに，人間に固有の自由は存する。

② どのような道徳に従うかを自分で決めるに際して，多数者による同調への圧力を完全に排除できなければ，真に自由な決断とは言えない。

③ 自己の様々な可能性を追求することは，それが他者の自由を損なっているという事実を顧みない，責任を欠いた態度である。

④ 自由はあらゆる価値の基礎にあり，それ自体が行為の目的なのだから，個人は自分だけでなく他人の自由もまた同時に求めるはずである。

問９　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **38**

① 法や制度は，他者とともに生きることを支えるものであるが，時に人々の自由を抑圧する手段ともなる。それゆえ，各人は，法や制度のあり方を常に問い直し，社会のなかで自分が自由であることの意味を考える必要がある。

② 法や制度は，時に個人の自由と衝突するが，各人が共同の利益を顧慮することで，衝突を回避し得る。それゆえ，各人は，自らの利益を犠牲にして常に社会全体の利益を優先させる義務があることを自覚する必要がある。

③ 法や制度は，他者とともに生きることを支えるものであるが，時に政治的権力によって濫用（らんよう）されてしまう。それゆえ，各人は，自由であるために，社会から距離を取り，法や制度との関わりを可能な限り控える必要がある。

④ 法や制度は，時に個人の自由と衝突するが，人間の自由な決断は本来，あらゆる障害を乗り越える可能性を秘めている。それゆえ，各人は，権力との衝突を恐れることなく，法や制度にとらわれずに行動する必要がある。

第３講　西洋近現代思想（2009 年度４）

（解答番号 22 〜 30 ）

第４問　次の文章を読み，下の問い（問１〜８）に答えよ。（配点　24）

この世界における確実なことを見通す困難さは，闇(やみ)に譬(たと)えられる。闇の中を生きていくためには光が要る。西洋近代哲学はⓐその光を理性に求め，それによって世界を隈(くま)なく照らしだそうとした。ここでは，西洋近代における理性の歩みを振り返り，現代における理性の意義を考えてみよう。

デカルトは，確信をもって人生を歩むために真偽を識別する新しい原理を探求し，哲学の第一原理となるⓑ「コギト（私は考える）」を探り当てた。いわば闇を照らす光である。この光としての理性の能力を吟味したカントは，現実の人間がいかに欲望に流されやすくとも，ⓒ人間の意志は道徳法則を義務として受け止め，かつそれに従いうるのであり，そこに理性的存在としての人間の自由があるとした。これに対してヘーゲルは，カントにおける理性と自由との関係がなお 22 なものにとどまるとした。彼は歴史を精神の自己展開の過程と把握し，そこで精神の本質である自由が実現されると考えたのである。このように，西洋近代哲学において理性は，世界を光の王国につくりかえる自由の原理と考えられたのである。

しかし，ガス灯や電灯で闇を追い払った近代文明が様々な問題を抱えていたように，理性による光の王国も多くの問題を孕(はら)んでいた。キルケゴールは，ⓓ倫理的であろうとすると絶望せざるを得ない人間の現実を直視した。そこからみれば，理性を通じた自由の実現という構想は，人間の現実を無視した空論にすぎない。このようなキルケゴールの考え方は，後の 23 などに影響を与え，実存主義の道を切り開いた。他方，ヘーゲル哲学を事実から切り離された空論に陥っていると批判したパースは，行動に立ち返ってⓔ思考を明晰(めいせき)にする方法を発展させ，プラグマティズムを提唱した。両者は理性を人間の生の営みのなかに位置づけて世界を捉(とら)え直し，それぞれの立場から現代における哲学の課題を明らかにしたのである。

戦争や環境破壊の危機に直面する現在，近代文明を推進した理性の見直しはますます差し迫った課題となっている。現代では，光としての理性の有する特権的な位置づけは失われ，ⓕ人間理性は人々の日常の行為や言語の働きから理解されるようになってきた。理性に対するこのような反省は，近代理性の光の及ばぬ暗がりを探り出し，人間社会のあり方に対して，ⓖ新たな展望を与えようとする試みと言えよう。

問１　文章中の 22 ・ 23 に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

22　①　具体的　②　抽象的　③　客観的　④　現実的

23
①　ショーペンハウアー　②　ベルンシュタイン
③　ヤスパース　④　フッサール

問２　下線部ⓐに関連して，人間の理性という光をもって世界を照らし出そうとした西洋近代の思想を啓蒙思想という。フランス啓蒙思想家の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 24

①　モンテスキューは，人民の革命によって絶対王政を転覆すべきだとした。
②　ヴォルテールは，ロックの経験論に学び宗教的な迷信や偏見を批判した。
③　ディドロは，王政の保護のもと，宗教を擁護する『百科全書』を編纂（へんさん）した。
④　サン＝シモンは，資本主義の科学的分析に基づいて理想社会を構想した。

問３　下線部ⓑに関して，デカルトは「コギト」から出発して精神を理解した。精神に関するデカルトの見解として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

① 精神は，人間の根源にある欲望を統御する良心であり，教育を通じて社会の規範が内面化されたものである。

② 精神は，誠実なる神によって人間に与えられた良識であり，信仰に応じて各人に配分されているものである。

③ 精神は，思考を属性とする実体であり，延長を属性とする物体である身体から明確に区別されるものである。

④ 精神は，客観的な真理を追究しようとする高邁の心であり，情念との関(かか)わりをもたずに存在するものである。

問４　下線部ⓒのように道徳を捉えたカントに対して，功利主義者ベンサムは行為の判断基準として行為の結果を重んじた。後者の考え方による発言として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **26**

① 「私は，どんな状況下でも嘘(うそ)をつくべきではないと考えているので，自分に不利益が及ぶとしても，正直に話をすることにしている。」

② 「私の行動原則は，その時々の自分の快楽を最大にすることだから，将来を考えて今を我慢するようなことはしないことにしている。」

③ 「社会の幸福の総和が増大するとしても，不平等が拡大するのはよくないから，まずは個々人の平等を実現すべきだと，私は考える。」

④ 「自分の行動が正しいかどうかに不安を覚えるとき，私は，その行動をとることによって人々の快楽の量が増えるかどうかを考える。」

問５　下線部ⓓに関して，キルケゴールはどのように考えたか。その説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 27

① 本来の自己を見失って絶望する人間は，理性によっては根拠づけられることのない信仰への決断によって，本来の自己を回復できる。

② 現世の悪に絶望するキリスト者は，神から与えられた現世の務めに専心することによって，人間としての本来のあり方を獲得できる。

③ 超越的な神がもはや存在しない現実に絶望する人間は，自ら覚悟をもって価値創造に挑むことで，本来の力を獲得することができる。

④ 肉体を支配する悪の原理に絶望するキリスト者は，信仰による決断を通して，魂を肉体から解放し，本来の故郷に帰ることができる。

問６　下線部ⓔに関して，パースにおいて思考を明晰にするとは，行動を導く信念の意味内容をはっきりと捉えることであった。これに関する次の文章※を読み，パースの考え方の説明として最も適当なものを，次の①〜④のうちから一つ選べ。 **28**

※この部分につきましては，著作権の都合上
掲載することができません。

① 思考を明晰にするためには，同じ習慣的な行動であっても，異なった信念に導かれていることに注意すべきである。

② 思考を明晰にするためには，主観的な信念の違いにではなく，客観的な行動を導く意識の違いに注意すべきである。

③ 思考を明晰にするためには，信念の表現の違いにではなく，信念が生み出す行動の仕方の違いに注目すべきである。

④ 思考を明晰にするためには，人間の内面に隠れている意識や信念の相違を言い表す表現の違いに注目すべきである。

問７　下線部ⓕのあり方を批判的に検討した現代の思想家フーコーについての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **29**

① 西洋哲学を成り立たせてきた主体などの概念が覆い隠してきた問題を，歴史のなかで新たに問うために脱構築を主張し，理性の概念を捉え直した。
② 理性と狂気とが区別されるようになってきた西洋の歴史を分析し，確固とした理性という考えが歴史の過程の産物であることを明らかにした。
③ 非西洋の未開社会の実地調査を通して，西洋社会とは異なる独自の思考体系を見いだし，西洋の理性的思考を特権化するような考えを斥（しりぞ）けた。
④ 自己意識のなかに取りこめない他者性が現れる場を「顔」という言葉で表現し，そのような他者に向き合えない理性の暴力性に照明を当てた。

問８　本文の趣旨に照らして，下線部ⓖの「新たな展望」とはどのようなものであると考えられるか。その記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **30**

① 近代理性は，具体的な日常のなかで生きるための知恵を提供できなかったために，戦争や環境破壊を招いた。今後は，日常の知恵を教える権威に従って，知恵に基づいて生きる道を模索すべきである。
② 近代理性は，社会的存在であることに伴う義務を軽視してきたために，社会を不安定にし，人間疎外を招いた。今後は，伝統的な社会的規範の意義を見直し，義務を自覚する道を模索すべきである。
③ 近代理性は，未開の闇を克服して光の文明社会を建設しようとしたが，自然破壊など新たな野蛮に陥った。今後は，理性のみならず感情にも目を向け，内なる自然に従う道を模索すべきである。
④ 近代理性は，自由を実現する主体として優越的な地位を与えられてきたが，様々な問題の源ともなっている。今後は，自由の主体としての理性を捉え直し，対話によって生きる道を模索すべきである。

第３講　解答

西洋近現代思想（2013年度追試４）

問１ 30	④	問２ 31	④	問３ 32	②
問４ 33	③	問５ 34	①	問６ 35	⑧
問７ 36	②	問８ 37	④	問９ 38	①

西洋近現代思想（2009年度４）

問１ 22	②	23	③	問２ 24	②
問３ 25	③	問４ 26	④	問５ 27	①
問６ 28	③	問７ 29	②	問８ 30	④

〈***Note***〉

第３講　総まくり○×テスト

近現代の西洋思想

ルネサンス・モラリスト

1　ルネサンスの理想の人間像は，万能人〔普遍人〕である。

2　ペトラルカは，『神曲』（ダンテ）に対し“人曲”とも呼ばれる小説『デカメロン』を発表した。

3　エラスムスは，『人間の尊厳について』で人間の自由意志を肯定した。

4　代表的なモラリストであるフランスのモンテーニュは，『エセー〔随想録〕』で懐疑主義を「ク＝セ＝ジュ〔私は何を知るか〕」という言葉で表した。

宗教改革

1　人間は神への信仰によってのみ義とされる，というルターの根本的な思想を「信仰義認説」という。

2　カルヴァンの主著は，『キリスト教綱要』である。

近代科学の成立

1　コペルニクスは，『天体の回転について』を著し地動説を唱えた。

2　万有引力の法則は，ドイツのケプラーが発見した。

イギリス経験論

1　ベーコンは，伝統や権威を鵜呑みにし，誤った考えを盲信することで生まれる偏見を「洞窟のイドラ」とした。

2　ベーコンの主著には『ノヴム＝オルガヌム〔新機関〕』『ニュー＝アトランティス〔新大陸〕』などがある。

3　「存在されるとは知覚されることである」は，ヒュームの言葉である。

大陸合理論

1　「コギト＝エルゴ＝スム（われ思う，ゆえにわれあり）」は，デカルトの言葉である。

2　普遍的な命題から，理性的な推理によって特殊な心理を導く方法を「帰納法」という。

3　ドイツのライプニッツは，「神即自然」という汎神論的な哲学を唱え『永遠の相のもとに』『エチカ』を著した。

社会契約説

1　オランダのグロティウスは,「近代自然法の父」「国際法の父」と呼ばれる。

2　ホッブスは，イギリスの名誉革命期の哲学者・政治学者である。

3　ロックは,『統治二論〔市民政府二論〕』『人間悟性論』などを著した。

4　モンテスキュー，ヴォルテール，ディドロ，ダランベールはすべてフランスの啓蒙思想家である。

5　フランスのルソーは，全体意志〔全体意思〕を社会契約説の基本原理とし，イギリスの代議制を一般意志〔一般意思〕に基づいていると批判した。

ドイツ観念論〔ドイツ理想主義〕

1　対象が意識を規定するのでなく，意識が対象を規定するという，カントの哲学の変革を「コペルニクス的転回」と呼ぶ。

2　カントの道徳法則の根本原理は,「自然は服従することによってでなければ征服されない」である。

3　ヘーゲルは，矛盾･対立する立場を総合･統一することを，止揚〔アウフヘーベン〕と呼んだ。

4　ヘーゲルは,「世界史は自由の意識の進歩である」という言葉を遺した。

功利主義

1　『国富論〔諸国民の富〕』『道徳感情論』は，ともにイギリス古典派経済学者アダム＝スミスの主著である。

2　ベンサムは，快楽は数量的に計算できるという｢快楽計算」を提唱した。

3　ミルは『功利主義』『自由論』を著し，ベンサムの量的功利主義を修正し，質的功利主義を説いた。

実証主義と進化論

1　実証主義を確立したのはイギリスの哲学者コントである。

2　ダーウィンの生物進化論に対し，ベルクソンは社会進化論を唱えた。

社会主義

1　ドイツのマルクスとエンゲルスは，イギリスのオーウェン，フランスのサン＝シモンやフーリエら先人の社会主義者を「空想的社会主義者」とした。

2　マルクスとエンゲルスが確立した社会観･歴史観を，「唯物史観〔史的唯物論〕」と呼ぶ。

3　マルクスの経済学の主著は『資本論』である。

4　イギリスのベルンシュタインは，修正マルクス主義を唱えた。

5　1917年にロシア革命を起こしたのは，レーニンらである。

実存主義

1　キルケゴールのいう「実存の三段階」の最終段階は，美的実存である。

2　ニーチェは『悲劇の誕生』『ツァラトゥストラはこう語った』『力への意志』などを著した。

3　ヤスパースは，「実存的交わり」を説いた，有神論的実存主義者である。

4　ハイデッガーは，日常生活に埋没して，他人と同じようにふるまいながら，何者でもないような匿名の存在としての人間を，「ひと〔世人，ダス＝マン〕」とした。

5　サルトルは，「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」と言った。

6　実存主義の作家であるカミュは，『異邦人』『ペスト』などの作品を遺した。

プラグマティズム

1　プラグマティズムの創始者は，ジェームズである。

2　デューイの哲学の根本思想は，「道具主義」であるが，教育学者として『民主主義と教育』などの著書もある。

現代のヒューマニズム

1　シュヴァイツァー思想の根本理念は，「非暴力主義」である。

2　修道女マザー＝テレサは，「無関心」を罪であるとし，インドで奉仕活動に打ち込んだ。

3　「インド独立運動の父」と呼ばれるのは，ガンディーである。

4　アメリカでワシントン大行進を行い，黒人解放運動を主導したのはキング牧師である。

フランクフルト学派

1　ホルクハイマーとアドルノの共著が，『啓蒙の弁証法』である。

2　「対話的理性〔コミュニケーション的理性〕」という言葉を用いたのは，ハーバーマスである。

構造主義と新しい思想

1　スイスのソシュールは，『悲しき熱帯』『野生の思考』などを著した。

2　フランスのフーコーは，構造主義と関わりながらも，独自の思想を展開し，『言葉と物』『狂気の歴史』『監獄の誕生』などを著した。

3　言語哲学者のウィトゲンシュタインは，「語りえぬものについては，沈黙しなければならない」という言葉を残した。

4　アメリカの科学史家クーンは，「パラダイム」という概念を唱えた。

5　フランスのデリダは，新しい哲学を構築しようとして「脱構築」を唱えた。

6　ハンナ=アーレントは，『全体主義の起源』『人間の条件』などを著した

7　ハーバード大学で哲学を教えたフリードマンは，『正義論』を著した。

第３講　○×テスト　解答

ルネサンス・モラリスト

1　○　2　×（ペトラルカ→ボッカチオ）

3　×（エラスムス→ピコ＝デラ＝ミランドラ）　4　○

宗教改革

1　○　2　○

近代科学の成立

1　○　2　×（ドイツのケプラー→イギリスのニュートン）

イギリス経験論

1　×（洞窟のイドラ→劇場のイドラ）　2　○

3　×（ヒューム→バークリー）

大陸合理論

1　○　2　×（帰納法→演繹法）

3　×（ドイツのライプニッツ→オランダのスピノザ）

社会契約説

1　○　2　×（名誉革命期→ピューリタン革命期）　3　○　4　○

5　×（全体意志と一般意志が逆）

ドイツ観念論〔ドイツ理想主義〕

1　○

2　×（「　」内がベーコンの言葉になっているので…→汝の意志の格率が，つねに同時に普遍的な法則として妥当しうるように行為せよ）

3　○　4　○

功利主義

1　○　2　○　3　○

実証主義と進化論

1　×（イギリス→フランス）　2　×（ベルクソン→スペンサー）

社会主義

1　○　2　○　3　○　4　×（イギリス→ドイツ）　5　○

実存主義

1　×（美的実存→宗教的実存）　2　○　3　○　4　○

5　×（サルトル→ボーヴォワール）　6　○

プラグマティズム

1　×（ジェームズ→パース）　2　○

現代のヒューマニズム

1　×（非暴力主義→生命への畏敬）　2　○　3　○　4　○

フランクフルト学派

1　○　2　○

構造主義と新しい思想

1　×（ソシュール→レヴィ＝ストロース）　2　○　3　○　4　○

5　○　6　○　7　×（フリードマン→ロールズ）